

上信越高原国立公園
(谷川地域)

指 定 書

平成 27 年 3 月 27 日
環 境 省

目 次

1	指定理由	1
2	地域の概要	2
(1)	景観の特性	2
ア	地形、地質	2
イ	植生・野生生物	2
ウ	自然現象	3
エ	文化景観	3
(2)	利用の現況	3
(3)	社会経済的背景	4
ア	土地所有者	4
イ	人口及び産業	4
ウ	権利制限関係	5
3	公園区域	7

1 指定理由

上信越高原国立公園は、浅間山^{あさまやま}、四阿山^{あずまやさん}、白根山^{しらねさん}、岩菅山^{いわすげやま}等の火山群やそれらの山麓の火山性高原、谷川連峰等の構造山地に、巨大な溶岩台地である苗場山^{なえばさん}の地域等を合わせ、我が国を代表する山岳及び高原景観地として、昭和 24 年 9 月 7 日に国立公園に指定された。その後、昭和 27 年 10 月 9 日の利用計画の決定、昭和 27 年 10 月 28 日の特別地域の指定、昭和 44 年 1 月 10 日の特別保護地区の指定が行われている。

本公園は「山と高原が彩るレクリエーションワールド」をテーマとして、成層火山やカルデラ、火山性高原等の火山活動による様々な地形と氷食による断崖・岩壁や蛇紋岩^{じやもんがん}植生が見られる非火山性構造山地等の景観要素からなる風致景観を保全し、これらの風致景観を活かした多様な利用を適切に推進するものである。

本公園谷川地域については、昭和 24 年 9 月 7 日の指定後、区域及び公園計画にかかる全面的な見直しが行われず、現在に至っている。本地域は、非火山性の構造山地として群馬県と新潟県の県境に谷川連峰がそびえ、標高は 2,000m に届かない程度であるが、ヨーロッパのアルプス山脈を彷彿とさせる非対称山体の美しい山岳景観を呈し、多くの観光客や登山者に親しまれている。本地域は、地形的要因や利用導線等から大きく谷川エリアと赤谷エリアの 2 地域に分けることができる。

谷川エリアは湯脛曾川^{ゆびそがわ}の流域に位置し、谷川岳をはじめとして一ノ倉岳^{いちのくらだけ}、茂倉岳^{しげくら}、武能岳^{ぶのう}、朝日岳^{あさひ}、白毛門^{しらがもん}で形成される馬蹄形の盆地を有し、一ノ倉沢、マチガ沢、幽ノ沢^{ゆうのさわ}等の氷河地形が見られるエリアである。高山帯から山地帯に位置するため、高山低木群落からブナ・ミズナラ群落まで多様な植生分布が見られ、雪田草原や風衝草原等には高山植物群落が見られる。山麓には湯脛曾温泉や谷川温泉があり、登山基地となっている。当該エリアは、平成 24 年 6 月に全国 3 番目、国立公園内では第 1 号のエコツーリズム推進法に基づく全体構想認定地域で、地元団体によって自然環境の保護と適正利用の推進が行われている。国道 291 号線のマイカー規制もその一環であり、利用シーズンには車両の乗り入れが禁止されるなどの対応が取られている。

赤谷エリアは赤谷川とムタコ沢の流域に位置し、万太郎山^{まんたろうやま}、仙ノ倉山^{せんのからやま}、平標山^{たいらっぴょうやま}、三国山の谷川連峰^{いながつみやま}と稲包山^{あかざわやま}、赤沢山^{あづまやさん}に囲まれたエリアで、旧新治村^{にいしはるむら}の地域である。高山帯から山地帯に位置し、高山低木群落からブナ・ミズナラ群落まで多様な植生分布が見られ、雪田草原や風衝草原には高山植物群落が見られる。山麓には川古^{かわふる}、法師温泉^{ほうし}等古くからの温泉地がある。当該エリアは、平成 16 年から三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画（赤谷プロジェクト）が進められている地域で、土地所有者である国や自然保護団体、地域団体によって生物多様性に配慮した森林管理が行われている。

以上より、非火山性連峰を風景形式とし、それと一体的な非対象山体の美しい山岳景観を有する本区域を、我が国を代表する傑出した景観を有する地域として国立公園に指定するものである。

2 地域の概要

(1) 景観の特性

ア 地形、地質

谷川連峰は、2,000m に足りない中級山岳であるが、山容はまさしく高山的で、アルプス的な景観を呈している。これは、この地域が残雪に富み、各地に高山草原が発達していることなどに起因しているが、最大の要因はやはり一ノ倉沢、マチガ沢、幽ノ沢、^{まないたぐら} 俎岳などに代表される急峻な岩壁と露岩地の存在がある。これら急峻な岩壁と露岩地は氷河の浸食や融雪水や雪崩によるもので、尾根と沢の比高は 200～400m にもなり、いくつかの傾斜変換点を携える等の特徴がある。また、谷川連峰の各所に雪食凹地形が存在し、谷川岳山頂付近から一ノ倉岳、^{しげくらだけ} 茂倉岳、^{ぶのうだけ} 武能岳を経て^{よもぎとうげ} 蓬峠辺りまでと、朝日岳周辺に見られる。急峻で発達した谷地形には複数の滝があり、湯桧曾川上流部や赤谷川上流部に点在している。

谷川地域は、深成岩類の石英閃緑岩～閃緑岩類が広く分布し、これらは古期岩類および新第三系を貫き、それらに接触変成作用を与えている。古期岩類には、蛇紋岩や花崗岩類、輝緑岩、結晶片岩等の岩石が含まれる。新第三系は主に火山砕屑岩から成るもので、当地域南方の水上地区付近のものに連続すると考えられている。蛇紋岩は超塩基性岩類に属し、その化学的特性から周囲の植生とは異なる蛇紋岩植生が発達している。蛇紋岩は谷川岳山頂の他、天神尾根から^{てんじんだいら} 天神平、茂倉岳、朝日岳にかけて見られる。結晶片岩は谷川岳山頂付近のみで確認されるが、蛇紋岩に取り囲まれており、蛇紋岩のゼノリス状結晶片岩として特筆される。

イ 植生・野生生物

谷川地域は谷川岳を中心とし、北の朝日岳から西の平標山、南の赤沢山周辺までのきわめて広い範囲と、その東南の谷川温泉・湯桧曾温泉、南の法師温泉・川古温泉の温泉地が含まれている。この地域の植生分布の特徴は次のとおりである。

- ①自然植生の占める割合はきわめて高く、また垂直植生帯の形成も良好である。すなわち海拔 1,600m 前後を境としてそれより下部にはブナ林が広がり、上部にはササ・ダケカンバ群落やササ自然草原などの亜高山帯の群落が分布している。そしてこれらの上部と下部をつなぐ様に、ミヤマナラ低木林が不連続な帯状に分布している。海拔 1,900m 以上にはハイマツなど高山低木群落や、雪田草原、高山ハイデおよび風衝草原などの高山植生が分布している。
- ②亜高山性の針葉樹林の発達がきわめて悪く、山岳の西向斜面上部に小面積に認められるのみである。これは西の苗場山周辺において針葉樹林の発達が良いのに比べると対照的である。わが国の東北部の亜高山帯では針葉樹林の分布が欠けることが一般的であるが、苗場山との対比で見ると限りでは、この地域が両方の性質の山岳の中間点といえる。
- ③谷川温泉・湯桧曾温泉と法師温泉・川古温泉一帯は自然植生の占める割合がきわめて小さく、スギ・ヒノキの人工林とミズナラ二次林の占める割合が大きい。

この地域で注目すべき植物群落としては、谷川岳の蛇紋岩植生、朝日岳の雪田植生が挙げられる。蛇紋岩植生では、ホソバヒナウスユキソウ、ジョウシュウアズマギク、ジョウシュウオニアザミ、

クモマニガナ、イブキボウフウ、ナエバキスミレ、ユキワリソウ、シブツアサギクなどが見られる。雪田植生では、イワイチョウ、タテヤマリンンドウ、コイワカガミ、ショウジョウバカマ、キンコウカ、ヌマガヤなどが見られる。

変化に富んだ植生と地形の複雑さによって、多くの野生動物が生息している。特に一ノ倉沢岩場はイワツバメの繁殖地となっており、ハリオアマツバメやアマツバメも見られる。谷川連峰の岩場は、イヌワシの繁殖地にもなっている。

哺乳類は、ツキノワグマやニホンカモシカ等の大型哺乳類の他、ヤマネ、ホンシュウトガリネズミ、ニホンカワネズミ等の中小型哺乳類も多数生息している。また、高山蝶も多数生息しており、ミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲ、ヒメギフチョウ等が稜線部の雪田植生等で観察することができる。

ウ 自然現象

谷川地域は群馬・新潟の県境の山地で、そのほとんどが海拔高度 1,000m 以上である。この山地は、関東地方と中部地方(上越方面)の境界となる分水嶺となるばかりでなく、気候的には、本州の太平洋側と日本海側の著しく異なる気候地域の境界にもあたっている。

年間の平均気温は約 8～10℃であり、年間降水量は約 1,800～2,000mm である。谷川連峰のそびえる三国山脈の北側では典型的な日本海側気候地帯になるため、三国山脈では降雪量が多く、年間降水量が 3,000mm を超えるところも少なくない。

エ 文化景観

湯桧曽温泉、谷川温泉、猿ヶ京温泉などの温泉集落や、法師温泉、川古温泉など豊かな自然景観の中に点在する温泉宿も見られる。中でも、法師温泉は与謝野晶子や直木三十五、川端康成など古くから多数の文人・墨客によって親しまれた歴史をもち、明治期に建てられた旅館の建物は平成 18 年には登録有形文化財に指定されている。

本地域には、日本の百名峠に収録されている三国峠をはじめ、人の往来によって開かれた、標高が高い位置での峠道も存在している。

(2) 利用の現況

谷川地域においては、ピークハントを目的とした登山の他、高山植物の花や急峻な岩壁を望むなど自然探勝を目的とした散策利用、ラフティングやキャニオニング等のアウトドアスポーツ等の利用が見られる。谷川岳の登山基地となっている^{ど あいぐち}土合口には、各登山口があるほか、ロープウェーが整備されており、登山者のみならず、一般観光客も多数訪れる場所となっている。

近年では、利用者の目的が多様化しており、登山のみならずアウトドアスポーツを体験する利用者も多く、利用者数は増加傾向にある。平成 25 年の谷川岳の登山者数は約 32,000 人（環境省登山者カウンタースタータ）となっており、みなかみ町の年間観光入り込み者数は約 417 万人（平成 25 年度：みなかみ町調べ）で、全体的な入り込み者数は横ばいである。

(3) 社会経済的背景

ア 土地所有別

谷川地域の公園面積 14,908ha のうち、国有地 14,399ha、公有地 51ha、私有地 458ha であり、国有地の公園全体に占める割合が大きい。

イ 人口及び産業

本公園区域に係る市町村は群馬県利根郡みなかみ町であり、人口及び世帯数は次の通りで、近年は減少傾向にある。公園区域内の居住者は少数である。

	世帯数 (戸)	人口 (人)
平成 2 年	8,192	26,540
平成 7 年	8,441	26,252
平成 12 年	8,391	25,079
平成 17 年	8,021	23,310
平成 22 年	7,864	21,345
平成 26 年 6 月 1 日	8,189	20,878

※平成 22 年までは国勢調査結果。

※平成 26 年は住民基本台帳に基づくものであり、国勢調査結果とは異なる。

※平成 17 年に月夜野町、水上町、新治村が合併し、みなかみ町となる。

人口の減少に伴い産業就業者は年々減少し、第一次産業は激減している反面、第三次産業は温泉やアウトドアを中心とした観光業が主要産業であり、就業者の 7 割が従事しており、国立公園との関わりも深い。

	第 1 次産業		第 2 次産業		第 3 次産業		就業者総数
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	
平成 12 年	1,793	12.6	3,381	23.7	9,072	63.7	14,262
平成 17 年	1,466	12.2	2,545	21.2	8,008	66.6	12,019
平成 22 年	1,062	10.0	2,207	20.9	7,301	69.1	10,570

※国勢調査結果（群馬県みなかみ町）

エコツーリズムの推進を積極的に行っており、エコツアーの開発が盛んに行われている。谷川岳ロープウェイの山頂駅周辺の天神平では、花をめぐる散策ツアーが行われ、星空観察会等も実施されている。土合口から一ノ倉沢までの区間では渋滞等による排ガス対策としてマイカー規制を実施しているが、当該路線を活用して登録インタープリターによるガイドウォーク等も実施しており、その他外

来生物法に基づく特定外来生物オオハンゴンソウの防除実施ツアー等、環境保全活動と観光ツアーを組み合わせたプログラム開発が行われている。また、アウトドアではラフティングやキャニオニングが盛んで、湯桧曽川及びその支流において多くの観光事業者が事業を展開している。

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(国有林)

種類	位置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	群馬県利根郡みなかみ町内	12,447	昭 36. 5. 23 昭 37. 6. 27 昭 46. 3. 30 昭 54. 7. 25 昭 55. 4. 4 昭 58. 4. 30 昭 60. 8. 17 平 2. 8. 21 平 11. 10. 27
土砂流出防備	群馬県利根郡みなかみ町内	1,223	昭 36. 5. 23 昭 37. 6. 27 昭 58. 4. 30
干害防備	群馬県利根郡みなかみ町内	33	平 11. 10. 27
なだれ防止	群馬県利根郡みなかみ町内	207	昭 36. 5. 23 昭 58. 4. 30
保健	群馬県利根郡みなかみ町内	3	昭 58. 4. 30 昭 58. 10. 21

(民有林)

種類	位置	重複面積 (ha)	指定年月日
土砂流出防備	群馬県利根郡みなかみ町内	6	明 31. 1. 1 明 44. 2. 13 昭 53. 3. 28
土砂崩壊防備	群馬県利根郡みなかみ町内	6	昭 32. 4. 19

(イ) 鳥獣保護区

(県指定)

種類	位置	重複面積 (ha)	当初指定年月日
仙ノ倉山	群馬県利根郡みなかみ町内	2.664	昭 55. 4. 1

種類	位置	重複面積 (ha)	当初指定年月日
谷川岳	群馬県利根郡みなかみ町内	4,039	昭 59.11. 1
法師	群馬県利根郡みなかみ町内	1,851	昭 59.11. 1

(ウ) 史跡名勝天然記念物

区分	名称	位置	指定年月日
国指定特別天然記念物	カモシカ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 30. 2. 15
国指定天然記念物	ヤマネ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 50. 6. 26
	日本犬 (秋田犬)	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 6. 7. 31
	日本犬 (柴犬)	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 11.12. 16
	日本犬 (紀州犬)	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 9. 5. 1
	日本犬 (四国犬)	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 12. 6. 15
	矮鶏 (チャボ)	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 16. 8. 1
	イヌワシ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 40. 5. 12
	ミヤコタナゴ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 49. 6. 25
	アユモドキ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 52. 7. 2
国登録文化財	法師温泉長寿館 ^{ちやうじゆかん}	群馬県利根郡みなかみ町大字永井 650	平 18. 8. 24
県指定天然記念物	ミヤマモンキチョウ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 52. 4. 1
	ベニヒカゲ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 52. 4. 1
	オオイチモンジ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 52. 4. 1
	ミヤマシロチョウ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 52. 4. 1
	ヒメギフチョウ	地域を定めず指定 (群馬県)	昭 61. 3. 7
	トウホクサンショウウオ	地域を定めず指定 (群馬県)	平 19. 3. 27
	ヒダサンショウウオ	地域を定めず指定 (群馬県)	平 19. 3. 27
	ユビソヤナギ群落	湯桧曾川流域	平 20. 3. 27

3 公園区域

上信越高原国立公園谷川地域の区域を次のとおりとする。

(表 1 : 公園区域表)

都道府県名	区 域	面積 (ha)
群馬県	利根郡みなかみ町内 国有林利根沼田森林管理署 214 林班、215 林班、225 林班から 227 林班まで、229 林班、232 林班、236 林班から 238 林班まで、241 林班及び 243 林班から 246 林班までの全部並びに 216 林班から 222 林班まで、228 林班、230 林班、231 林班、233 林班 235 林班まで、239 林班、240 林班、242 林班、308 林班から 312 林班まで、314 林班から 320 林班まで、322 林班から 324 林班まで及び 326 林班の各一部 利根郡みなかみ町 大字相俣、大字^{あいまた}猿ヶ京温泉、大字谷川、大字永井及び大字湯桧曾の各一部	14,908
合 計		14,908